企画振興部広報県民課

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ　　『学びと自治の力で拓く新時代に向けて』
～北アルプス地域の観光振興やインバウンド対応への取組について～

日　時　　平成30年５月13日（日）15:30～17:00

場　所　　白馬村多目的研修集会施設（白馬村）

目　次

1　開会・パネラー紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 2
2　知事あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 3
3　県総合５か年計画『しあわせ信州創造プラン2.0』概要説明　・・・・・・Ｐ 6
4　活動事例紹介
・和田寛（ゆたか）さん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 8
・ケビン モラードさん　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ14
・中村ゆかりさん　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ16
5　知事とのディスカッション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ28
6　知事総括コメント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ34

【参加者　約70人】

パネラー

・和田　寛さん（白馬観光開発株式会社 代表取締役社長）
・ケビン モラードさん（JHN トラベル 代表取締役、白馬国際経営会議 会長）
・中村ゆかりさん（株式会社五龍館 代表取締役、白馬 Women’s CLUB 会長）
・柴田謙二さん（株式会社ホテルオペレーションシステムズ 代表取締役）
・長野県知事　阿部守一

１　開会・パネラー紹介

【北アルプス地域振興局企画振興課長　柳沢　剛】
　皆様、お待たせいたしました。ただいまから県政タウンミーティングを開催いたします。
　本日の進行を務めます、北アルプス地域振興局企画振興課の柳沢剛と申します。
　どうぞよろしくお願いいたします。

　この県政タウンミーティングは、知事が各地へ伺って県民の皆様と意見交換を行うもので、年に 10 回程度行っております。
　今回はしあわせ信州移動知事室に併せて開催させていただき、今年度第２回目でございます。

　さて、県では、『しあわせ信州創造プラン 2.0』という、今年度を初年度とする県の総合５か年計画を策定しました。
　この計画は、長野県の１０年、２０年後の将来像を展望し、これを実現するための行動計画で、今日お配りした封筒の中に概要版の冊子が入っております。後ほど概要を説明させていただきます。

　本日は、地域で活躍されている４名の皆さんをお招きしております。
　日頃の活動内容をお話しいただき、その後の知事や皆様との意見交換等を通じて、本日のテーマであり、かつ、５か年計画のサブタイトルのキーワードである『学びと自治の力』について、お集まりの皆さんそれぞれの立場で主体的に考え、実践していっていただくきっかけにしていきたいと考えております。

　それでは、ここで本日お招きした方々をご紹介いたします。
　本日お配りした資料の中にプロフィールが入っておりますのでご覧ください。

　まず、皆様から向かって左側でございますが、和田寛（ゆたか）さんです。和田さんは白馬観光開発株式会社の代表取締役社長をお務めですが、冬季におけるスキー場のリフト営業にとどまることなく、四季を通じた白馬山麓の観光振興に幅広くご活躍をいただいております。和田さん、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、ケビン・モラードさんです。ＪＨＮトラベル代表取締役のケビンさんは、外国人旅行客に対して、国内の移動をスムーズに行うためのバスツアーの企画などを通じてインバウンドの推進にご尽力をいただいています。ケビンさん、よろしくお願いいたします。

次に、中村ゆかりさんです。中村さんはホテル五龍館の経営者として、また村内の女性有志11名で組織する白馬Women's CLUB会長を務めるなど、女性目線での地域の活性化に尽力をいただいております。中村さん、よろしくお願いいたします。

最後に柴田謙二さんです。柴田さんはホテル白馬を経営される傍ら、夏の白馬の風物詩ともなった『白馬Alps花三昧』にも継続的に関与され続けておられるなど、花を通じた地域全体の観光振興にご活躍をいただいております。柴田さんには、このあとフリートークで進行役をお願いしております。柴田さん、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。初めに阿部知事からごあいさつを申し上げます。

２　知事あいさつ

【長野県知事　阿部守一】

皆さん、こんにちは。本日は大勢の皆さんにお集まりをいただき、本当にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずお休みの中、大勢の皆さんにタウンミーティングにご参加いただきまして、本当にありがとうございます。また、パネリストの皆様方にも大変ご多用の中ご参加をいただきまして心から感謝を申し上げたいというふうに思います。ありがとうございます。

先ほどのお話にもありましたけれども、今日から移動知事室ということで、合同庁舎の中に移動知事室をつくって、今日、明日、明後日と３日間、この大北地域で仕事をさせていただいています。その一環で、今日はこういう形でタウンミーティングを開催させていただきました。今日は、皆さんと一緒にこの地域のインバウンド、あるいは観光について皆さんと一緒に考えたいと思っています。

そして、私からのお願いは、皆さんのお手もとに今日お配りしていますけれども、こ

の４月から県の新しい総合計画をスタートさせています。細かい内容までは知っていただく必要はあまりないと思います。我々行政の計画でありますから責任をもって取り組んで実行し、皆さんに成果をお伝えできるようにしていきたいというふうに思いますけれども、皆さんに知っておいていただきたいのは、この４月からスタートした計画は、この表紙にあるように『しあわせ信州創造プラン 2.0』と、今までの５か年計画を基本的に踏襲してバージョンアップさせていただいたということ、そして基本目標は、『確かな暮らしが営まれる美しい信州』ということで、確かな暮らし、明日への希望を持って暮らせる社会、そして万が一のときには温かな支えが得られる安心感のある社会、こういったことを目指して基本目標にしているということはぜひご理解いただきたいと思います。このことはこれまでの『しあわせ信州創造プラン』と全く同じことを書いていますので、ぜひ、この確かな暮らしの実現をしていくんだということを皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思います。

そしてもう１点、この総合計画で皆さんと共有したいのは、この表紙にも書いてありますように『学びと自治の力で拓く新時代』、学びと自治に力を入れたいということです。これが今回の総合計画の大きなテーマでして、私は学びについても自治についても、これは長野県の特色であり強みであり、ある意味、うちの県のＤＮＡだというふうに思っています。かつて教育県といわれた長野県、今でも勤勉で人づくり、教育に力を注いでいる県であります。そしてそれぞれの地域、例えばこの北安曇地域であったり、あるいは白馬村という村であったり、あるいはその中のコミュニティであったり、そうした地域の絆であったり特色であったり、こうしたものがしっかりと息づいているのが長野県のある種、強さというふうに思っています。

この学びと自治の強さですけれども、単に今までどおり放っておくだけではこれからの時代、私は対応し切れないと思っていますので、県としてはこの学び、子どもたちの教育から、人生 100 年時代における大人の学び、そして今日は観光がテーマですけれども、観光産業に携わる人材育成も含めて産業人材の育成、こうした幅広い観点で教育、ひとづくり、人材育成に力を入れていきたいと思っています。このことが単に教育の問題だけではなくて、産業の振興であったり、地域の活性化であったり、こうしたものに資するというふうに思っています。

そしてこの学びというのは単に行政が取り組むだけではなくて、一人一人の県民の皆様方にも主体的にいろいろなことを学んでいただきたいというふうに思っています。

今日は観光がテーマですけれども、例えば白馬地域、世界の観光地に学んで世界の観光地と競争していかなければいけないというふうに思います。それは全て行政がお膳立

てできるものではありません。ぜひ一人一人の県民の皆様方の力を最大限発揮できるよう我々は取り組みますし、ぜひ皆さんにはそうしたフィールドを生かしていただいて、主体的な学びに積極的に参画をしていただきたいと思います。

もう一つの自治ですけれども、最近の日本の風潮は何か誰かが何かをやってくれるんじゃないかと。誰かに文句を言っておけばいいんじゃないかみたいなことが結構多いなというふうに思っています。もちろん私は県知事の立場ですから、県民の皆様方からご要請をいただいていることは真摯に受けとめて、しっかり対応を考えていくことが役割でありますが、県の仕事というのは世の中にいっぱいあります。

例えばお年寄りの話し相手、あるいは日ごろの居場所、こうしたものは我々は重要だと思っています。でも、そんなことを公務員が一々全部やっていたら、もう幾ら税金をいただいても足りません。そういう意味では地域社会の中で支え合い、助け合い、あるいは自助努力、こうしたものも、これからの時代、どんどん活性化していかなければいけないと思いますし、それと同時に我々行政、自治体として責任感を持って仕事をしていかなければいけないと思っています。単に国が法律をつくったからそれを右から左に通知をして仕事は終わりだというような行政はあってはいけないと思っています。

私、いつもタウンミーティングで申し上げているのは、あちら側、こちら側はやめましょうねというふうに言っています。それは何かというと、いつも、私、要望を聞く人、皆さん要望する人みたいな会話にどうしてもなりがちです。それは全く私は間違っていると思っています。私だけで世の中が良くなるならそんな簡単なことはありません。皆さんと力をあわせて、目指す方向を共有して、そして私が知事としてやらなければいけないこと、あるいは中央省庁にやってもらわなければいけないこと、あるいは、今日、村長にも来ていただいておりますけれども、市町村にやっていただかなければいけないこと、そして観光関係者、あるいは地域の住民、それぞれの皆さんがそれぞれの役割を果たしてこそ、この白馬であったり、北アルプス地域が良くなると思いますので、そういう意味では、何か言いっぱなし、聞きっぱなしではなくて、ぜひ一緒になって考える場に、今日はしていきたいと思いますし、この自治という観点で、ぜひ県民の皆さんもまず主体的に、自分たちができることは何なのか、自分の役割は何なのかということを考えていただきながら、ぜひ我々県もしっかり頑張りますので、一緒になって明るい長野県をつくるためにご協力をいただきたいというふうに思っています。

今日はそういう意味では、この観光について皆さんと問題意識を共有して、ぜひ一つでも二つでも、この白馬の皆さんと一緒になって取り組めることを見つけたいというふうに思っています。

皆さんには新しい長野県の総合計画、目指す方向性、確かな暮らしが営まれる美しい信州だということと、この学びと自治の力をベースにして、いろいろな政策を展開していこうと県は考えているんだということをぜひご理解をいただきたいということを冒頭お願いして、私からのあいさつとさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【北アルプス地域振興局企画振興課長　柳沢　剛】

それではここで、しあわせ信州創造プラン2.0の概要につきまして、北アルプス地域振興局長の中村よりご説明をいたします。

プランの概要の冊子をご覧をいただきたいと思います。それでは、局長、よろしくお願いいたします。

３　県総合５か年計画『しあわせ信州創造プラン2.0』概要説明

【北アルプス地域振興局長　中村正人】

こんにちは。北アルプス地域振興局長の中村正人と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは私のほうから長野県総合５か年計画、『しあわせ信州創造プラン2.0』について簡単に触れさせていただきたいと思います。

これは県政の基本ということで総合計画と言っていますけれども、今年の３月に策定したものでございます。概ね2030年の県の将来像を展望したときに、こうありたいとか、こうなっていてほしいなという姿、これを実現するために、今後この５年間、どういう施策を行い行動していったらいいかと、こういうことを示したというふうに捉えていただければよろしいと思います。

特にこの計画の特色ということで、めくっていただきまして１ページ、２ページを見ていただきますと、１点目として、今、知事の申し上げた『学びと自治の力』と、こういう言葉が出てきます。ここが今回の計画の大きな特色ということでございますけれども、この学びと自治の力を推進エンジンとして政策を展開をしていくんだと、これが１点目の特色。２点目が、中長期的な視点をもってチャレンジしていこうということで、そういったプロジェクトに取り組んでいこうということ。３点目として、これまで以上に地域重視ということで、ちょっと後で触れますけれども、地域の計画をやっぱり立て

ようじゃないかということで、これを充実したということ。

それから４点目として、国連で提唱しているSDGｓ（エスディージーズ：持続可能な開発目標）という言葉がございますけれども、持続可能な開発目標と言っていますが、こういったSDGｓというものを意識して策定しているんだということ。５点目として人口減少社会になっていく中で、そこの対応を重視していると。そして６点目として、県自身も学ぶ組織へ転換するんだと、こういうことであります。

特に学びと自治の力という部分、今、知事も強調させていただきましたけれども、これについては、自らを高めるために主体的にいろいろ知識や技術を身につけていただいていると思いますが、こういったものが学びだということなんです。これを地域のコミュニティとか社会の中でみんなで共有していく。そして地域の課題を解決していこうというのが自治だというふうに我々としては捉えさせていただいています。こんな方向でつくられているということを思ってもらえればいいと思います。

この学びと自治の力は、長野県みんなが育んできた強みだということで、これからの時代、より希望が持てる社会にしていくということが重要なんだという認識に立って、今回の計画の中心に据えているということを覚えてもらえればいいんじゃないかなと思っています。

７ページを開いていただきますと、基本目標があります。これからの県づくりに取り組むための基本目標ということで、『確かな暮らしが営まれる美しい信州』ということで、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、これまでも５か年計画というのがありましたけれども、その計画と同じタイトルになっています。そのサブタイトルに『学びと自治の力で拓く新時代』ということを新たに加えたということで、バージョンをアップしたんだという意味合いを込めて2.0と付けたということであります。

そういった中で、８ページにあるように、６つの政策の推進の方針を分けて進めていこうということであります。細かいところはまた見ていただければよろしいと思います。

次に、先ほど地域計画を重視したという部分で、本日、封筒の中にＡ３のカラーのバージョンが入っていると思います。これを見ていただければと思いますけれども、これが私ども北アルプスの地域の計画でございます。

大きく分けると５つに分かれていますけれども、１点目の産業の振興ですが、生産効率の高い、また、特色のある米づくり、それから特産物のブランド化、それから経営基盤の強化、こういったような産業の振興をしていこうじゃないかと。それから次は観光ですね。観光の振興。北アルプス、安曇野、ここはダイナミックな自然を活用した広域的な観光地域づくり、こういったものをしていこうじゃないかと。それから右側に行き

ますけれども、がん対策とか生活習慣病の予防や地域防災力の向上といったようなもので、安心・安全に暮らせる地域づくり。それから次に移住・定住なんかも含めて、地域を支えていく人材の育成とか確保といった部分。そして最後に、松本糸魚川連絡道路の整備促進と、この５つをこの地域の計画の柱と位置づけて進めていこうというものであります。

これらの中で特に、今日のテーマでもございますけれども観光振興、インバウンドの対応ですとか、グリーンシーズンでの、例えばサイクルツーリズムといったものを進めようじゃないかと。また農業とか食といった地域資源を生かして、体験型観光の推進の取組、こういった部分を打ち出しているということであります。そして観光の部分では、５年後には観光地の延べ利用者数を、現在702万人から724万人に増やしていきたいと、こんなふうに計画を立てているものであります。

これは、昨年１年間かけて皆さんからいろいろ意見を聞く中で立ててきたものでありまして、こういった計画に沿って政策を進めてまいりますのでよろしくお願いしたいと思います。私からは以上でございます。

４　活動事例紹介

【北アルプス地域振興局企画振興課長　柳沢　剛】

それでは次第にしたがいまして、パネラーの皆さんに日ごろの活動や仕事に対する思いなどについて順次お話をいただきたいと思いますが、これ以降の進行は、柴田さんにお願いをしたいと思います。それでは、柴田さん、よろしくお願いいたします。

【進行役：柴田謙二さん】

先ほど紹介いただきました柴田です。これからは私のほうで進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは初めに白馬観光開発株式会社、代表取締役社長の和田社長より、四季を通じたHAKUBA VALLYの魅力創出と発信ということでご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

【和田　寛（ゆたか）さん】

皆さんこんにちは、白馬観光開発の和田でございます。私、東京生まれ東京育ちで４

年前までずっと東京で生活をしていました。そうは言いながらもスキーが好きで山も好きで、白馬の圧倒的な大自然と観光地としてのものすごいポテンシャルに惹かれて、日本スキー場開発という会社に転職をして、その日に白馬観光開発のほうに出向させていただいて、去年の10月から社長ということを仰せつかって仕事をさせていただいております。こんな高いところからお話するのもおこがましいんですけれども、我々の今の取組について少しご紹介させていただきたいというふうに思っています。

タイトルに『世界水準のオールシーズンマウンテンリゾートの実現に向けて』と書かせていただきました。大きく２つ、ここに意味を込めていると思っていて、一つがオールシーズンということです。もう一つがリゾートという言葉が我々会社の中でやっていきたいなという話をしていることです。

当たり前ですけれども、当社だけでできるような話ではなくて、やっぱり地域の皆さん方といろいろ連携しながら進めていくと、もしくは行政からも力を借りながら進めていくということになると思いますので、少し簡単に取組の概要を紹介させていただければと思います。

去年のシーズン、16～17シーズンから、これ白馬にいらっしゃる方はほとんどご存知かと思いますけれども、『HAKUBA VALLEY（ハクバ バレー）』ということで、共通の自動開札システムというのをスキー場で取り入れております。これによって大町、小谷、白馬にある10のスキー場のうち７つのスキー場が一つのインフラでつながったということです。これは、我々にとってやっぱりエポックメイキング（画期的）な出来事だったのかなというふうに思っていまして、何がいいかというと、日本最大のスキー場ということを胸を張って言えるようになったということだと思っています。

外国人の方は、７日から10日ぐらい平均的には滞在されていて、白馬に来る理由のやはり一つ大きいところは、いろいろなスキー場を簡単に回れるよねというところがあります。こういったところで、スキー場としてはそういうインフラは当然ですが、これだけでは全然足りなくて、まだまだ二次交通、シャトルバスをどうするという話だったり、スキー場そのものの施設をどうするとかという大きな課題はまだまだ抱えていますけれども、一つ大きく前に一歩踏み出せるようになってきているのかなと思っています。これは世界水準のスキー場になるための第一歩というふうに思っています。

ただ、個人的には、やはりスキー場というだけだと限界はあるのかなと思っていて、よくいろいろなところでちょっと話をしているんですけれども、海水浴場とビーチリゾートというのは違いますよね。海水浴場は海で泳ぐところで、ビーチリゾートというのは、多分、ゆっくり非日常を味わいに行くところだと思います。同じように、スキー場

とスノーリゾートとか、スキー場とマウンテンリゾートというのは違うのかなと思っていて、当然、そのスキー場としての魅力というのもどんどん上げていかなければいけないんですけれども、まだまだ日本のスキー場というのはリゾートになり切っていないというふうに個人的には思っています。その辺の取組を幾つか、本当にまだ表面的な取組なんですけれども、ご案内させていただければというのが次のページ以降です。

登っていただいた方もいらっしゃるかなと思いますけれども、これも去年のシーズンからコロナビールさんと提携をして、八方尾根のうさぎ平にあるテラスを改装していただきました。青空のもとで、火を焚いたバーになっていて、音楽を鳴らして雪山の中でビールを飲めます。ちょっとそういった非日常感というのをどんどんどんどん我々の会社としては演出をしていきたいなというところで取り組み始めた、第一弾なというふうに思っています。

今年、ビールの売れた本数だけで１万本を超えたというところで、会社のビジネスとしても良かったなと思いますけれども、それだけ多くの方に今までになかったようなことを味わっていただけるというふうになってきているのは良かったのかなと思っています。

次のページですけれども、これは今年の２月に、同じく八方尾根のうさぎ平で、スターバックスさんと提携をして、彼らにとっても国内初めての取組にはなるんですけれども、“We Proudly Serve Starbucks”、スターバックス以外の店舗でスターバックスのコーヒーが飲める店舗の第１号、日本第１号店というのを我々のほうで開店をさせていただきました。

これも、スターバックスじゃなくていいじゃないかという声があるかもしれないんですけれども、非日常、雪山の中で普段飲んでいるようなコーヒーを飲めるというのもおもしろい体験なのかなと思って、一つの提案として取組をさせていただいたというところです。

当然、スキー場そのものとしての魅力をどんどん増していくということもやっていかなければいけないということで、次のページになりますけれども、小谷村の栂池高原スキー場の中で『TSUGA POW DBD』という取組を開始させていただいております。これはもう、かれこれ３シーズンやってきております。

バックカントリーに行かれるお客さん、どんどんどんどん増えているというところでありますけれども、スキー場としては、やはりスキー場の中でより安全にパウダースノーを楽しんでいただくという取組をやっていきたいというところで、ダイナマイトも使いながらアバランチコントロールをして、雪崩のコントロールをして積極的に、当然、

安全な状況を確認しながらという形にはなりますけれども、新しい楽しみ、今までのコースの中でスキーを楽しむという以外の楽しみを味わってもらえるような場をつくっていこうというところで、これも年々お客さんの数としては倍増を続けておりまして、こういった、まずはスノーリゾートとしての進化と、スキー場としての骨もしっかりしていきながら、非日常的な味わいもできるようにしていくというような取組を続けているというところでございます。

もう一つ、次のページ以降がオールシーズンというところの取組を幾つかご紹介させていただければと思います。皆さんのお手元に、まず１つ目、マウンテンバイクパークガイドというところを出させていただきました。岩岳でやっておりますので足を運んでいただきたいなというふうに思います。これもかれこれ４年前からですか、徐々に復活をさせてきたというところです。90年代ぐらいまではマウテンバイクの聖地として岩岳はかなり多くのお客さんでにぎわっていたというふうに私は聞いています。当時、体験している身ではないんですけれども、ただ、その後、ずっと休止をしていたというところでした。

マウンテンバイクは、スキー場から見るとものすごく相性のいいアクティビティです。ゴンドラに乗っていただいて、スキー場の斜面の一部を使って滑り下りていくというところで、何とかこの楽しさをいろいろな形でまた味わっていただけるようにしたいなというところで、うちの社内にもマウンテンバイク大好きな人間が何人かいて、彼らが主体となって復活をさせ始めているというところでした。

そこをさらに加速しようじゃないかというところで、去年、オーストラリアからマウンテンバイクのワールドカップのコースをつくれるようなトレイルビルダーさんを招致して、我々としては結構、思い切った投資をして、新たにコースをつくったというところです。

日本のマウテンバイクコースは、90年代以降、比較的急なコースばかりで、なかなかエントリー層をつかまえきれていなかったというところが一つの課題だったのかなと思っていました。そういうところもあって、彼らからのアドバイスも、まずは初心者、初級者でも遊べるようなコースをつくったほうがいいよということで、岩岳に頂上から下まで全部で７キロぐらい、今までのコースは４キロちょっとぐらいだったんですけれども、それを、約倍に近い距離でのんびりと下りて来られるようなコースをつくったというのが去年でした。去年、実際それでかなりマウンテンバイク愛好者の方から好評をいただきまして、おととしの５倍ぐらいお客さんが増えたというところです。

実際はそれ９月、10月でしかオープンできなかったので、今年通年でいけば、１万人

ぐらいは来場者としては見込めるかなというふうに見ているところです。これについても今年以降、また積極的にいろいろな投資もかけながら施設の充実であったり、コースの充実であったりというのをやっていこうと思って進めています。

次のページが今年の取組という形になります。３月に新しい施設を２つつくりますというメディア発表をさせていただきました。新聞にも大きく取り上げていただいて、比較的、ニュースのスタートとしてはよかったなというところです。

まず１つ目が、岩岳の『マウンテンハーバー』という名前を付けさせていただいております。次のページをめくっていただくと、こんな景色が見えますというパーツの絵が出ていますけれども、個人的には白馬の中で本当に山がきれいに見えるポイントの一つが岩岳山頂なのかなと思っていまして、うちの会社の中のメンバーといろいろ話をしてどういうものをつくりたいか、どういうことをしたらお客さんが喜んでもらえるかなというような話を進めて、素直に山をきれいに眺めていただく施設をつくろうじゃないかということを企画をさせていただいたというところです。ゴンドラ一本、登っていただくと本当に歩いてすぐ、こういう絶景が待っている施設をつくることで、本当に山岳リゾートとしてのアイコニック（象徴的）な施設になればいいなというようなことを考えています。

次のページをお願いします。これはイメージのパーツでまだまだこれからいろいろ調整をしているところですけれども、今年の９月の下旬オープンを予定しています。

次のページをお願いします。中には県内発祥、軽井沢の発祥の企業さんなんですけれども、フォースさんという素敵なレストランを東京で展開されている会社の方にほとんど押しかけていって、ぜひちょっと白馬にお店をつくってくださいというようなお願いをして、ニューヨーク発祥のパン屋さんなんですけれども、シティベーカリー（The　City Bakery）という東京や大阪でかなり人気を博しているパン屋さんに入っていただくことにしました。

先ほどの景色を眺めながら、ぜひ絶景とパンとコーヒーと、という素敵な時間を過ごしていただきたいなというところで、９月のおそらく末のオープンになるかと思います。オープニングセレモニーなんかも今、いろいろな準備を進めようということを考えております。

次のページになります。いろいろな企画もやっていこうというところで、夜であったり、朝であったり、いろいろなアクティビティと組み合わせながらいろいろな施設ができる、いろいろな楽しみができる施設にしたいなと思います。ぜひ地元の宿泊の方であったり、アクティビティの事業者の方と連携をさせていただきながら、こういう場でこ

ういうことをやりたいんだけれどもどう？というようなお声がけもいただければおもしろいかななんていうことも考えています。よろしくお願いいたします。

もう一つ新しい施設というのが、これは小谷村の栂池高原のほうでつくる予定の施設であります。次のページをお願いします。これは８月１日のオープンというところを目指して、フランス発祥のエクストリーム　アベンチャーズという会社さんと連携をさせていただくことにしました。これフランス発祥で、今、世界15カ国、160カ所ぐらいの、いわゆるアドベンチャーパークをつくられている会社さんの日本第１号店になります。

これもフランス人と直接話をしながら、どういう施設が一番おもしろいかなというようなところもアドバイスをもらって、かなり多くの日本初めてのアイテムということで、先ほど申し上げたように、日本発のアクティビティ『WOW』という名前をつけて８月にオープンを予定しております。三層式の網でできたアドベンチャー施設というのがメインの施設になります。網の上で遊べるのでハーネスがないという形です。それに加えてこのタワーをつくって、チューブを使ってエアバックに飛び出したり、池に飛び出すというバージョンもございます。そのほか壁を登ったり、バンジージャンプみたいなものができたりといういろいろなアクティビティができます。

もう一つの目玉はこの『コギダス』という名前をつけていますけれども、本当に空中を自転車で行くと。ジップライン、最近、いろいろなところでつくられていますけれども、ちょっと長さ競争になっているので、違うところで勝負したいなということです。

長野県、まだこういう施設はあまりないかなと思います。海の上では最近いろいろなところで出ていますけれども、フローティングなアスレチックというのもつくっていきたいと考えています。

最後のセクションになりますが、我々としてはこういった形でオールシーズン楽しめる場所というのをどんどんつくっていこうということを進めております。

ただ、やはり市町村と一緒に我々スキー場としては再生というか、新しい道を歩んでいくということがどうしても必要だろうというところで、今、各スキー場の皆さん方といろいろと話をさせていただいて、再生プランというか、これからのグランドデザインというのを描こうという形でやっています。

これは岩岳の例です。去年から『白馬岩岳マスタープラン』というのを策定して進めています。ゲレンデのリニューアルであったり、リフトのリニューアルであったり、先ほどのグリーン期の魅力向上に向けたアイテムの話であったり。ただ、それだけではなくて、やはり地域の街並みであったり、宿泊事業の皆さん方がより元気になる取組というのもスキー場も一緒になってやらせていただきたいというような話を進めています。

次のページですね、その第１弾として今年の冬、もう１月の途中というところで、ご案内のとおり、新田切久保という街並み、かなり日本情緒が残ってきれいな街が白馬にもございます。ここを生かした街並みイベントをやって外国人の方を、スキー場の魅力だけでなくて街の魅力で呼べるようにしていったらどうかというようなことも言っています。かがり火を焚いたり、ちょうちんでライトアップをしたり、いろいろな振る舞いをやったりというところで、かなり多くの外国人の方に来ていただけたかなというふうに思っております。

次のページをお願いします。今、岩岳は、特に八方のエリアなんかと比べても宿泊をやめられる方というのが増えてしまっています。白馬の場合、ご案内のとおり７割から８割が宿泊のお客様です。宿泊のベッド数が減るということは、我々スキー人にとってはイコール来場者が減るというような関係性もあるかなというふうに思っています。ですので、スキー場としても積極的にその宿の再生、もしくは後継者を探すというところをお手伝いさせていただくというようなことを今、岩岳では始めています。

これは視察をしに行った例なんですけれども、古民家の再生というのが最近、世の中ではちょっとずつ増えたりしています。実際、もう宿をやめるよというところ、もしくは、今、このままだとリニューアルはかけられないけれども、どうすればいいかなというお宿さんとお話をさせていただきながら、外から投資家を見つけてきて、オペレーターさんの組織をつくっていくというようなこともこれから必要なのかなと考えています。

ここら辺、スキー場だけ、もしくは地域だけではなかなかうまくいかないところもありますので、行政の支援も受けながら進められればいいのかなと思いますし、スキー場だけでは当然できないことなんですけれども、地域としてやっていかなければいけない課題なのかなというようなことは考えているというところでございます。

私からのプレゼンテーションは以上です。ありがとうございました。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございました。それでは続きまして、ＪＨＮトラベルのケビン モラードさんから、インバウンドの可能性について、よろしくお願いいたします。

【ケビン モラードさん】

皆さん、こんにちは。ＪＨＮトラベルのケビンと申します。簡単な自己紹介なんですけれども、1992年初来日で、最初は宮崎県に住んでいて、約15年前、山の田舎に住みたいということで、白馬に子ども４人と奥さんと白馬に引っ越してきました。

今日はインバウンドについて全体的に話をしたいと思います。

次のスライドをお願いします。

インバウンドがいつから始まったのかというと、このグラフで見るとはっきりわかると思うんですけれども、大きい２つの世界イベントがあって、日本をすごく注目したのは、1998年の長野オリンピックと、あと2002年の日韓サッカーワールドカップ、それまで自分の生活の中で１週間ぐらい、ほかの外国人に会わないときもあったんだけれども、今、駅へ行ったら毎回毎回、外国人がいるので、全然感覚が違うと思います。

このグラフの水色の線は訪日外国人の人数で、これは2015年までだけれども、2016年、2017年のデータはさらに年間300～400万人ぐらい増えているんですね。オレンジの線は出国日本人の数なんですけれども、見ると2013年ぐらいから訪日外国人の方が超えてきています。そして白馬村観光局総会の資料では、大体、2022年から2024年に外国人の宿泊者数は日本人の宿泊者数より超える予定ということです。

そして2030年ぐらいになったら、外国人の宿泊数は日本人より1.7倍ぐらい高くなりそう。これからインバウンドの増加は、これから同じように続くと思います。では次をお願いします。

これは、白馬村と全国のインバウンドの国籍と人数の割合ですが、左のほうを見ると、上から75%は近くの韓国、中国、台湾、香港ということで、アジア圏内から日本に来ているお客さんが非常に多い。そして白馬を見ると、２年前のスキー場の外国人の調査で、半分ぐらいはオーストラリアから来ています。あとスキーの歴史のある国とかからもあると思います。

次をお願いします。そしてこれは世界中のスキー場なんですけれども、スキー客の出身地は、今、アジアは17%ぐらい、そしてアルプスは16%とか、そういうことなんですけれども、でもこのグラフを見るとヨーロッパはすごいマーケットシェアを持っているので、どうやって我々はこういうマーケットシェアをとるか、それがこれからの課題だと思います。

次、お願いします。そして、私個人の考えなんですけれども、今、全国の課題は、今75%は隣のアジアから来ているんですけれども、世界のディスティネーションとしてアジア以外のお客さんをどうしても増やさなければいけない。いわゆるゴールデンルートというのは東京、大阪、京都ですが、訪日外国人の半分ぐらいがこの３つのところしか行っていない。地方までどうやって引っ張るかというのが課題になると思います。

みんなご存知だと思いますが、７～８年前ぐらいは、東京のビジネルホテルは１泊5,000円ぐらいの単価だったんですけれども、今は宿泊税も払わなければいけなくなっ

たし、１万円ぐらいの部屋しかない。で、今、大阪、東京、京都もこれから５年ぐらいは部屋数が非常に足りなくなる。30、40%ぐらい足りなくなる。あと羽田空港、成田空港もあと２～３年ぐらいで足りなくなります。すると、どうしても東京、関東のほうで第３の大型空港が要るというふうになります。

そして白馬の問題は、今、アジアでどうやってお客さんを来させるか、アジア、フィリピンとか、さらに向こうの人はどういう旅をしたいのかどうかというのを、去年もベトナムへ行って、フィリピンに行って、タイも行って、向こうの旅行会社といろいろ話をしたんですけれども、全然知らない情報が出てきて、例えばフィリピン人は歩きたくない。ベトナムの女性はさらに動きたくなくて、ジャケット着て、ただ写真をとりたい、それだけでも満足だと。いずれもそれを全然理解していなくて、やっぱり現地に行って、その現地のニーズに対する旅のプランをつくらないといけないかなと思っております。

それと私たちの課題は、ゴールデンルートに来て、楽しくて、もう一回、日本に行きたい、２回目、３回目という外国人をどうやって信州まで引っ張るか。どうやって楽しく旅行してもらうのか。それから、インフラの整備、私が白馬に来てから１本だけ新しいリフトが出来たんですが、外国の観光客、特にヨーロッパの人たちが来ると、それは1970～80年代のリゾート感覚の目線であると思います。

私の発表は以上です。ありがとうございました。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございました。それでは最後に、五龍館の中村ゆかりさんから、女性の視点を活かした地域の活性化の取組ということで、『花ごはん』という取組について発表をお願いいたします。

【中村ゆかりさん】

こんにちは。中村ゆかりと申します。よろしくお願いします。

ちょうど、先週、花ごはんの講習会にたくさんの方が来ていただきました。私は八方区でホテル五龍館をやっていますけれども、五龍館自体は民宿で創業85年になります。私は三代目の嫁になりますけれども、今日はその五龍館の話ではなくて、実は私たち白馬村に暮らす11人の女性の仲間と白馬Women’s CLUBというのをこの秋に立ち上げたんですね。ラ・ネージュ東館の塩島さんが発起人で私たちに声をかけてくださって、それで11人の女性が集まったんですけれども、年代が違う、子どもの世代が違う、あと地区が違う、あと業種が違う、同じ白馬のすぐ近くに暮らしていても実は全く接点がなく

て、知らなかったんです。

実際、会ってお茶を飲んで話をしてみたら、本当にみんないろいろなアイデアがあったり、いろいろなことに努力していたり、共通する思いもすごくあって、こんなにそばにいてもつながっていない、知らないものだなというのをつくづく感じました。そのときに何かみんなでやってみようということで始まったのが『白馬Women's CLUB』という私たち女性グループの活動なんです。

そこで私たちが考えたのは、みんな経営者ですので、観光にかかわることで直近の悩み、まず夏のグリーン時期ですね。冬はちょっと置いておいて、グリーン期のお客様が本当にここ数年、激減していると。なので、この時期のお客様が減っていくことに対して何とかみんなで、もう少し盛り上げていくことはできないだろうか。そこでみんなのアイデアで出たのが『花ごはん』。もともと、もう15年も続いている白馬アルプス花三昧という白馬の夏のキャンペーンがあるんですけれども、先ほども和田社長にお話いただいたように、ここの白馬のグリーン期の観光といえば索道の会社のそういうイベント、山のいろいろなことをやってくださることで成り立ってきたというのがあるんですけれども、夏山は、山の観光だけではもうちょっとお客様が減ってきているというのも事実だと思います。

そこで、私たちでも何か盛り上げていくようなことができないかということで、食べられるもの、見て触れて、山の花を楽しむだけじゃなくて、実際に食べる花、そんなことでお客さんにもっと身近に楽しんでもらうことができるんじゃないだろうか、そういうアイデアを出して、そして花ごはん講習会という形で、白馬村の村民の方に、皆さんでやってみませんかというようなことを提案しました。

食べられる花というのは、エディブル・フラワーという本当に食べられる花、パンジーだとか矢車草とか、皆さんよく知っている花なんですけれども、庭にある花をそのまま食べるというわけにはいかないんですが、やっぱり食べられるように殺虫剤を使っていない、農薬は使っていない、そういう専門につくられている花ではあるんですが、こういった花をちゃんと製造してくださっているところが長野県にはいろいろあります。そういったところのお花の業者さんにも協力していただいて講習会をしました。

料理研究科の脇雅世先生にエディブル・フラワーを使ったお料理の提案をしてもらって、花の生産業者さんたちにも協力をしていただいて五龍のエスカル会場、あと八方尾根の北尾根公園レストランでもトータルで180名、本当に多くの皆さんが参加してくださいました。きっと、やっぱり皆さん花が好き、食べることも好き、あとはみんなで何かやろうという呼びかけに共鳴してくださったんじゃないかなというふうに思います。

花ごはんというのは一体どういうものかというと、こういったエディブル・フラワーを使ったお料理ももちろん花ごはん。でも本当に定義は自由で、実際に畑にあるきゅうりの花、おくらの花、ズッキーニの花、あとそういったお花、本当に食べられる花というのは、いっぱい身の回りにあって、安全なものであればもちろんそれもＯＫ、あとは花に見立てたお料理、それも花ごはんでＯＫ。みんなのアイデアでデザートもＯＫですし、飲み物もＯＫ、何かそれなりに皆さんのアイデアで花ごはんというものをつくっていただいて、それでみんなで発信していただきたい、そういう花の提案をしました。

で、その花ごはんを使ってどういうふうにするのかというと、花ごはんというのは素材は自由なので、営業施設の方はどんどん花ごはんというものをつくって発信していただいて、販売をしてほしい。私たち営業施設だけでなくても、一般の家庭の方でも花ごはん、とても興味を持って講習会にも来ていただいた方も多いんですけれども、花ごはんをつくって、そしてそれをSNSで発信をしてもらいたい。インスタグラムですとかツイッター、フェイスブックで発信してもらいたい。そうすることでお互いに、私たちも一緒にそれを見ていますから、花ごはんを通じてそれでつながっていきたい。つながっていくことによって白馬と検索をしていただいたときに、ちょっと前までは山の景色、スキーの景色しか検索では出てこなかったのに、今は花ごはんというものがたくさん加わってくるんですよね。そうなったときに私たちみんながＰＲといいますか、一体、白馬村の花ごはんというのは何なのと、そういうふうになってきたときに、一つのムーブメントというのがつくれていくと思うんです。

これまでは、観光というと、何かのデスティネーションキャンペーンとかと何かで、何かをつけて何かで売るぞみたいなのがあったと思うんですが、結局、それだと一過性で終わっていってしまうものを、やっぱりここに暮らす私たちが何か同じ共通のことでつながって、楽しんで発信していくことってものすごく大きな力になっていくので、そんなことが目的になったらいいなと。そういうことを交流会でもお話したんですけれども、そうしましたら、まだ講習会は７日、８日終わって、まだそんなに日にちがたっていないんですけれども、今、インスタグラムで花ごはんと検索していただくいと本当にパッと、私、スクリーンショットをとってきただけで、これだけ皆さん上げてくれています。たくさんあります。

フェイスブックの投稿でも、その講習会に参加してくれた方が、実際にこれは白馬Women’s CLUBのメンバーの投稿ではなくて、参加してくださった方の投稿で、実際に、脇先生に教わったサーモンのサプライズサラダをつくってみましたという一般の方がフェイスブックに投稿してくださっています。

こんなふうに白馬アルプス花三昧、花ごはんというふうに投稿が広がってくる。そうすると、外部の人からは、すごく華やかだから、何？という問い合わせがちらほら来ています。何かこういうムーブメントが一つの観光だったり、私たちが一緒にここで暮らしながら、同じ目的を持って一緒にやっていくことの楽しさになっていくという活動が始まったらいいなと思っています。

まだまだ、これはまだスタートしたばかりなので最初の一歩なんですけれども、こんなことを白馬Women's CLUBではやっています。ついでにインスタグラム講習会もやりますので、またよろしくお願いいたします。以上です。

【進行役：柴田謙二さん】

はい、ありがとうございました。

今、白馬で、ご活躍の３名の方から非常に熱い思いを語っていただきました。

それではまず、今、お三方からの発表を阿部知事にお聞きいただきましたけれども、知事のほうからちょっと感想をいただければと思いますが。

【長野県知事　阿部守一】

私、皆さんのそれぞれの取り組まれていることを本当にすばらしいなというふうに思っています。私、知事の立場でありますから、ぜひ何かこんなことを一緒にやりませんかという観点で、少し短くお話したいと思います。

まず和田さんの取組は、まさに私がやりたい話そのものでありまして。長野県、私、いつも感じているんですけれども、白馬もそうですけれども長野県全体そうなんですけれども、自然や景観とか歴史とか文化とか、そういう歴史文化や景観もかつての先人たちが築いてきた人の手が入っているものですけれども、やっぱり今の我々が工夫したり努力したりして、お客様を引きつける魅力づくりというのはやっぱり、正直、弱いんじゃないかなというふうに思っています。

そういう中で、県の観光行政は、今、舵を切りつつあるところでありまして、私、しばらく前から、観光キャンペーン一辺倒はやめてしまえと、要は県の観光行政というのは何とかイベント、ＤＣ、今度はアフターＤＣやりますけれども、何かキャンペーン、キャンペーン、キャンペーン、キャンペーンと、何かあっちへ行ったりこっちに来て何かイベント、特に出かけていって何かこんなことがありますよみたいな話をやっているんですけれども。それも必要な部分もあると思いますけれども、やっぱり来たときに本当に実質的な中身を良くしていかないと、キャンペーンだけやっていると何か結局、価

値をどんどんどんどんすり減らしてしまうときがある。無駄に使ってしまって、もっと自分たちの持っている価値を、どうやって磨くかということをちゃんと考えなければいけないんじゃないかということで、今、県は観光部だけの観光行政じゃなくて、全ての部局が観光に取り組めということで観光戦略推進本部というのをつくっています。例えば食の話であれば農政部も関係しますし、あるいは森を使う、例えば森林セラピーみたいなものはうちの県でいえば林務部も関係しますし、あるいは、マウンテンバイクは山ですけれども、例えばサイクリングロードを整備するとなれば、それは建設部の仕事なので、今までは何かそういのがバラバラだったのをもう一緒に考えていきましょうと、県の組織の中で一緒に考えていきましょうということで、取組を始めています。和田さんたちの取組は、私にとって非常にいい取組だと思うのでどんどん進めていってもらいたいと思いますが。

私、ちょっと質問させてもらいますけれども、いろいろな開発するときに規制とかがあると思うんですけれども、そこら辺の課題が何かあるのかないのかというところだけ、ちょっと後で教えていただければありたがたいなと。私は、規制かけている立場でもあるし、規制改革をやらなければいけない立場でもあるので、そこら辺は少し、一緒に考える部分があれば考えていきたいと思います。

それから、ケビンさんのお話でインバウンド、これから、長野県も昨年の観光庁の統計では132万人まで増えてきて、私、まだ日本人と外国人の比率から見ると、まだインバウンドの取組がうちの県は遅れているなというふうに思っているので、そこはもっともっと強化していかなければいけないというふうに思っています。

で、その中でアジア、この白馬についてはアジア圏が少なくてオーストラリアがほとんどだという話で、そこら辺の課題はぜひちょっと皆さんと一緒に、どういう方法でどういう国にこの白馬エリア、白馬バレー、あるいは北アルプス地域にアプローチしていけばいいのかというのは、ぜひ一緒に考える必要があるなと思ってお話を伺っていました。

ちょっと余談というか、私の視点で申し上げるのでちょっとまた皆さんから反応を聞かせてもらいたいと思いますけれども。先ほどのケビンさんの話もありましたけれども、長野県、やっぱり何だかんだ言って、世界に向けては1998年の冬季オリンピック・パラリンピックの話は非常に伝えやすい話でありますし、昨日も中国の河北省の許勤省長がいらっしゃっていましたけれども、2022年の北京オリンピックで、我々が35年間友好交流している河北省の張家口市がスキー競技の会場になるので、ぜひ長野県のこのオリン

ピック・パラリンピックに取り組んだノウハウを教えてほしいということでお越しになられています。

白馬村を含む白馬バレー、大町、小谷、白馬、この３市村も河北省の張家口市と交流、提携していきましょうということで進んでいます。

まずスキーとかウインタースポーツの話で申し上げれば、今年、平昌で本県選手も大分活躍していただいて、2020年が東京オリンピックで、これはまた日本自体が世界から注目される年があって、そして2022年が先ほど申し上げたように北京での冬季オリンピック・パラリンピックという形で、東アジアで３回、連続してオリンピック・パラリンピックが開かれるという極めて稀有な時期に来て、しかも我々長野県は、冬季オリンピック・パラリンピックを経験していますし、白馬にはオリンピックを受け入れたという実績もあるわけでありますので、私はぜひこれを、このHAKUBA VALLEYであったり、長野県の観光の振興、特にウィンタースポーツはしっかり使っていく必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

昨日も許勤省長に対しては教育旅行、何しろ中国は人口が多いんで、中国の今の目標は、北京冬季オリンピックまでにウインタースポーツ人口を３億人増やすと言っているわけで桁が違う、３億人増やすと。３億人増やすと言っているんで、裾野を広げるために、我々教育旅行とか、子どもたちを受け入れますよという話もさせていただいていますし、またお互い観光交流をもっとしっかりやっていきましょうというふうに言っています。

これ中国だけではなくて、平昌オリンピックを行った江原道とも、長野県は交流をさせていただいていまして、江原道と河北省と長野県で、ぜひこのオリンピックムーブメントを世界に一緒に発信しませんかという話をしています。これ、ちょっと三者足並みをそろえるのがなかなか難しいので、ちょっと時間がかかっていますけれども。ただ、河北省も江原道も、そこは結構、共通認識は持ちつつありますし、これオリンピックムーブメント、平和だったり友好交流であったり、こうした動きを広めるだけではなくて、さっきもちょっとケビンさんの図にもありましたけれども、やっぱりこれまでのウインタースポーツ、世界規模で見れば、やっぱりヨーロッパとか北米が何となくみんなが目指すスノーリゾートという感じになっているんで、この際、東アジアでオリンピックが、少なくとも韓国・中国で２回続けて行われて、我々も行ったわけですから、やっぱり東アジアのウインターリゾート、こうしたものをぜひ一緒に発信していきませんかという話もさせていただいています。

ぜひ、ちょっとこういう大きな、東アジア全体での流れというものと、このHAKUBA

VALLEY、どうつないでいけばいいのかっていうことも、またちょっと、できれば皆さんとディスカッションしたいなというふうに思います。

それから、あとケビンさんのお話の中でスキー施設、レトロだよねという話があって、これちょっと、これ、スキー場経営者の皆さんに意見を聞きたいと思うんですが、これからどうされていこうとしているのかということと、我々行政がその新しい設備投資にいかなる協力ができるのかということも、皆さんとお話をできればというふうに思います。

それから中村さんのお話の花ごはんですけれども、一つはやっぱり、私は観光の魅力をどう高めていくかということを、この『花ごはん』の話も含めて、もう一回ちゃんとしっかり長野県全体で考えていく必要があるなと。あるいは、さっき言ったように自治ですから、長野県全体というのは結構、多種多様な産物があるんで、県全体で考えると、どうしても何か広く薄くなるんで、やっぱりそれぞれの地域でしっかり考えてもらいたいなというふうに思っています。

そのときに、ぜひ私からお願いしたいのは、やっぱり地域内経済循環を私は促していきたいと思っています。グローバルな社会になればなるほど、何というか、地域の足元のところがおろそかになりかねないというふうに思っていますので。ぜひ、さっきも中村さんの話の中でも、結構、近くにいろいろな人たちがいるのにつながってないねというお話があったと思いますけれども、何というか、例えばこのエリア、例えば農家の方たちもいらっしゃれば、観光に携わっている方たちもいらっしゃれば、いろいろな業種の方がぜひ横でつながって、それぞれの産業をもっとしっかり連結させるようなことを考えていただければありがたいと。

食の振興という意味では、こういうことを言うと怒られちゃうかもしれないですけれども、私は長野県で海の魚をなるべく出してほしくないなというふうに思っていまして、海の魚を売っている人たちには申しわけないですけれども。やっぱり長野県のコイだとか、『信州サーモン』だとか、『大王イワナ』だとか、そういうのもつくっていますので、そういうのをもっともっと活用してもらいたいと思います。そういうことによって地域でお金が循環する流れというものを、ぜひ意識していただけるとありがたいなと。そのことが、めぐりめぐって自分たちの収入にもつながってくる話だと思っています。

これ食の話だけではなくて、今日のテーマとはちょっとずれますけれども、自然エネルギーの普及拡大にも長野県、力を入れています。自然エネルギー、地球環境にいい、環境にやさしいということだけではなくて、やっぱり、ほとんどの今のエネルギーというのは化石燃料を原料にしていますから、そういう意味では、みんなもうけは海外とか、

あるいは大きな規模の多国籍企業に持っていかれてしまっているというのが現実であります。もっと身近に木質バイオマスだったり、太陽光であったり、小水力であったり、身近なところでエネルギーをつくってもらえれば地域に確実にお金は還元されますし、地域内循環が行われるんで、私、そういうことも、この観光行政を進める中でもこの環境の問題、そしてエネルギーの問題、そして地域内の経済循環の問題、こうしたことをぜひ意識していただけるとありがたいなというふうに思っています。

それともう一点、『学びと自治』ということを申し上げていますので、ぜひこの白馬Women's CLUBのように、地域の皆さんが、やっぱり主体的にいろいろな動きをどんどん起こしていってもらいたいと。そういうものを、今、例えば長野県、元気づくり支援金みたいな制度もありますけれども、そうした資金面での応援だったり、あるいは去年から、先ほど中村局長から新しい総合計画を説明してもらいましたけれども、地域振興局も、今まで長野県は地方事務所と呼んでいました。事務所ですよ、事務所っていうのは何か座っていればいいみたいな話では、ちょっとやっぱりおかしいなということで地域振興局と称して、地域の皆さんと一緒に地域のことを考える組織ということに変えています。まだ成果が問われるのはこれからだというふうに思っていますけれども。ぜひそういう、組織的にも地域の皆さんの取組を応援していく形にしていますので、ぜひどんどん地域振興局を使ってもらいたいというふうに思っています。

またパネリストの皆さんとか会場の皆さんと少し、今、申し上げたことだけじゃなくて、ほかのテーマでもいいんで、少し話を深められればありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございました。それでは、今、知事のほうから和田社長のほうに、スキー場の設備投資についてちょっとご質問がございましたので、まずはそちらのほうをちょっと和田社長のご意見をお伺いしたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

【和田　寛さん】

おっしゃるとおり、レトロなスキー場というふうになってしまっているというのは、我々も一番深刻な問題として、当然、認識しています。さっきいろいろ説明したのは、あくまで表層的な取組だなというふうに思ってはいて。やはり我々スキー場が地域の集客装置だという認識を個人的にはしています。ですので、そこがある意味こう、安全なのかなってお客さんに不安を持たれたり、頻繁に止まったりとかというのでは当然、困

りますということで。

実は、さっきちょっと岩岳でマスタープランという話も触れさせていただきましたけれども、当然、その中の一番大きなポーションは、スキー場のリフトをどうやってきれいにかけかえていくかというところ。もしくはその中でスキー場の魅力をさらに高めるような新しいコースの設定だったりというのはどうやってできるかということが、我々の当然、一番大きな課題だと思っています。ただやっぱり、リフト１本、例えばゴンドラをかけかえると20数億円かかりますというようなことだったりいうところで。今のスキー場のキャッシュフローそのままだと、なかなか難しいところもなくはないというのが正直なところだと思っています。

ですので、スキー場の会社としては、まずはキャッシュフローを太くするという取組をしっかりやっていかなきゃいけないというのが、実はさっき申し上げた、そのグリーン期だと思っていますし、当然、会社のオペレーションをより効率的にしていくということ。これは１社だけではなくて、もしかしたら地域全体で取り組んだほうがいいこともたくさんあると思いますが、そういうことをしっかりやっていきたいというところで、いろいろな仕掛けであったり、もしくはそういう計画を立てているというのが現状です。

ただ、まだ、私、この会社に入って４年間、まだ、１本も新しいリフトがかけられていないんで、一刻も早くそれをやりたいなというふうに認識をして、親会社であったりいろいろな投資家さんと話を進めているというところです。

スキー場の単に一事業者のどうのこうのという話というよりは、やはり地域にお客さんを呼ぶための必要な道具なんだということをちょっと行政の方にもご相談をしながら進められるといいのかなと思っています。

規制に関しては、直接的に個人的に、今、やっている中で何か大きなロードブロックがあるかって言われると、そんなにはないようには感じています。ちょこちょこ小さいのはありますけれども、それは直接、行政と相談したりとかっていうので何とか解決ができるかなと。

もう少し大きな話で考えると、やはり、例えば去年やその前の年、雪は大分少なかったです。スキー場ももしかしたら、下はどんどんどんどん雪がつかなくなってくるっていう可能性があるのかななんていうこともあって、そうすると畢竟（ひっきょう＝つまるところ）、上に、今度、スキー場、もしくはスキーができるエリアというのを増やしていくということも考えなければ、長い目で見る話かもしれないですけど、考えていかなきゃいけない。

そうすると、今やはり、ほとんどスキー場の上部が国立公園に入り始めていて新しい

開発というのが実質的にはできない状態ということですけれども、最近、国立公園の魅力化プロジェクトなんていうのも動いていますけれども、もしかしたら輸送施設も含めてそういうところにつくるとかというところを、索道だけではなくてやはり地元、それから県なんかともご相談をしながら進めたいなと思っているというところでもあります。

ただ個人的には、規制というよりは、やはりインフラ整備の部分を行政の方にはもう少し一緒になって取り組んでいただけるとありがたいのかなと思っていまして。空港の話もそうかもしれないですし、長野からのアクセスも、オリンピック道路がありますけれども、やっぱり１時間強かかるというところ、もう少し高速化できないのか、それから、当然、松糸道路の話もあると思いますし。そういう白馬へのアクセスというところは、やはりまだ、ほかのリゾートさんと比べても大きいのかなというふうにも思います。

もう一つ、インフラという意味でいうと、やはり二次交通ですかね、こっちに来てからの交通。冬の間は何とか索道会社が幾ばくか補助金をいただきながら、リフトの収入の中からシャトルバスを回すなんていう形でやっていますけれども。本質的にはやはりもう少しそこも、行政の方に入っていただけると非常にスムーズに動く部分も多いんだろうなというふうには思ってはいるというところです。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございます。今、ちょっと和田社長のほうからも、インフラの整備ということで、これ今日、参加の皆さんも非常に興味のあるところだと思います。松糸道路につきましても、平成６年にスタートしてから、今のところまだ明確な方向性も、我々になかなか伝わってきてないということがありますし、インバウンドをやる中で、松本空港をいかに国際化につなげていくかというのも、特にアジアからのお客さんをこれから増やすということになりますと、成田、それから中部国際とか羽田空港からですと、どうしても５時間以上かかりますので、３泊・４泊の旅行で往復10時間かかるというのは非常に現実的ではない感じもしますので、その辺、ちょっとお話しいただければと。

【長野県知事　阿部守一】

これは私が頑張らなきゃいけない話で。松糸道路は、これは安曇野地域のルート案は、地元の皆さんに提示をさせていただいていますが、反対のご意見もあるということで。我々県としてはしっかり松糸道路の整備を進めていきたいと思いますが、しっかり地域の皆さんの合意をとりながら頑張らなきゃいけないということで。地域の皆さんの考え方があんまり反対だ賛成だという形で分断しないようにしながら、とはいえ、しっかり

事業進捗が図れるように取り組んでいきたいというふうに思っています。

それから松本空港ですけれども、まず空港は、これ京浜急行の社長にお願いして羽田からのバス、羽田は結構なかなかバス路線に参入させるのは難しかったのを何とかご協力いただいて、ルート開拓をさせていただいたりしていますが、おっしゃるようにもう一つ、松本空港をどう生かしていくかというのは非常に重要だと思っています。県としても発展・国際化方針を定めて、国際化に向けたステップを段階を踏んで取り組んでいこうということにしていまして、まずはチャーター便をしっかり定着させていくということが重要だと思っています。

実はさっき中国の話もしましたが、久方ぶりに韓国からのチャーター便、飛ばすことができましたが、これは、先ほども言ったように江原道との関係も生かしながら、さらにソウル市ともうちは交流させてもらっていますので、韓国と松本空港のチャーター便は一つ定着させていきたいと思っています。

それから中国との関係は、かつては、結構、中国からのチャーター便があったんですけれども、昨今の状況を聞くと、一つはその機材が、松本空港に入れるのはどうしても限定されてしまっているということと、非常に中国の航空需要が盛んで、飛行場の空きがないという、割り込むスペースをなかなかとりづらいということも聞いています。

実は河北省の許勤省長にもこの話はさせていただいて、ぜひ、河北省というのは北京の周りでありまして、中国政府自体は、この北京市と河北省、一体で開発エリアとして捉えていますので、北京とも非常に近い場所にあるんで、その河北省の石家荘空港と松本空港のチャーター便をまずは飛ばせないかという話をさせてもらっています。これはまだどうなるかわからないところもありますけど、向こうは真剣に受けとめて考えてもらっていますので。そのほか台湾との関係、あるいはロシアもチャーター便を飛ばせていますので、そういうところをまずしっかり固めていきたいなというふうに思っています。

ぜひ、これ海外からのチャーター便の場合は、我々いつも言われるのは、日本、松本空港へ来る側はお客が乗るんですけれども、こっち側からのアウトバウンドのほうがいまいち人が集まらないという話なんで。プログラムチャーターで定期的にずっと飛ばし続ければ、来た人を帰して来た人を帰してということでできるんですけれども、単発だとどうしても片方は空で飛ばすような場合も出てくるんで、そういうことだとなかなかチャーター便を飛ばしたくないなというふうになっちゃうんで、ぜひ皆さんには、松本空港発の便があるときにはできるだけ乗ってご協力いただければ、松本空港の国際化にも結びついてくると思いますので、ぜひご協力をいただければというふうに思います。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございます。ちょっとお時間のほうも限られたお時間ですので、もう一つ、広域観光についてなんですが。

私もちょっと個人的にガーデニングが好きでいろいろ、花でお客さんを呼べたらというようなことで考えているんですけれども。今、北海道では、北海道ガーデン街道という非常に広域的な取組がされておりまして、北海道と信州というのは非常に近い気候ですし、信州でも、点ではかなりいろいろ、そういった施設もありますし、白馬におきましても花三昧ということで、五竜に高山植物園があったりですね。ただ、それをなかなか全体での取組がないということで、我々としては、できたら信州全体でそういったような取組ができないかというのは常々ちょっと感じているところがありまして。その辺はいかがでしょうか。

【長野県知事　阿部守一】

花は、例えばアルストロメリアとかカーネーションの生産量は、日本で一番なのが長野県です。ただ、何となく全国へ行って花の話をすると、何か房総半島の千葉県とか、静岡県のイメージがみんな強いんで、もっとこの花については、これ、花きの生産者も長野県は大勢いらっしゃいますので、それをしっかり発信していくということは重要だと思っています。

ぜひちょっとこれ、柴田さん初め皆さんと共有したいのは、全国都市緑化フェアというのを来年やります。今日、私、このバッジをつけていますけれども、４月25日から６月16日まで、松本空港のある松本平広域公園を主会場にして、中信地域の大町市も入ってもらって、この日本全国に長野県のその都市の緑化と、それから信州花フェスタと今回、銘打っていますので、花のすばらしさを発信していこうというふうに考えて準備しています。

私は、何というか、イベントが成功すればいいという話、もちろんイベントは成功させなきゃいけないですけれども、それに向けてしっかりいろいろな取組を定着させて、イベントの後もつながるようにしていかなきゃいけないと思っていますので、今、いろいろな工夫を県と４市でやっています。これは中信地域の皆さんにもっとアピールしていかなきゃいけないと思いますので、地域振興局を通じてお知らせしたりしますし、皆さんに加わってもらいたい取組とか、あるいは参加してもらいたいイベントとか、そういうことも発信していきますので、ぜひご協力いただければというふうに思います。

県はいろいろなイベントで胸に花をつけるときに、大きな行事のときは生花を使って長野県の花をアピールするような工夫もしています。これ、さっきも申し上げたように、地消地産とか自治の話で、県もやりますけれども、ぜひいろいろな地域のイベントのときもリボンではなくて地元の生花を使ってもらうとか、ちょっとずつ工夫をしてもらうと、大分、長野県、やっぱり花の県だなというイメージが広がってくると思いますので、そういうところも、これは、私、あえて言いますけど、県がどうするんですかというふうな質問をいつも受けるんですけれども、県がやっているだけでは絶対広がりませんので、ぜひ皆さんのそれぞれのお立場でも、この長野県の花、長野県の花というのは一体、どこからどうやれば手に入るのかというのは、必要があればどんどん情報を出しますので、ぜひそういうのを皆さん活用していただければありがたいなというふうに思います。

５　知事とのディスカッション

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございます。それでは、ここからは、ちょっと限られたお時間でありますが、会場の方からご意見・ご質問とかがございましたらお話しいただければと思います。

挙手していただきまして、お名前のほうをおっしゃってください。いかがでしょうか。

【参加者】

２点、お願いがございまして、まず１点は、先ほどもいろいろ出ておりました白馬、ご存じのとおり、インバウンドが大変増えているんですが、異常なペースといいますか、大変増加のペースといろいろなことが想像以上に早く進んでおります。時間もお金も足りない部分もありますけれども。先ほどもちょっと話に出た規制緩和ですとか、前例がないことをお願いするようなこと、結構、増えてきているような気がしております。その辺をぜひ県のほうでバックアップをしていただきたいと思います。先ほど和田社長がおっしゃっていた世界のリゾート、例えばスイスは150年かかってできたものを、ここは10年か20年で、今やろうとしている、大変スピードが速い感じです。

それからもう１点、白馬高校の国際観光科、来年、１期生といいますか初めて卒業生を送り出す形になります。最初の質問と少し関連する部分があるんですけれども、今、若い方が県内とか地元で就業してくれる人が大変少なくなっている中で、大変いい卒業生、第１期目が出るんですが、より一層の白馬高校の国際観光科のバックアップもお願

いして、その子たちがぜひ信州、また白馬で働いていただけるようなことをお願いできればと、２つお願いしたいと思います。

【進行役：柴田謙二さん】
　最初の県の支援をお願いしたいというのは、何か具体的にはどんなこととかってありますか。

【参加者】
　事例を言うといっぱいあるんですけれども、例えば冬、外国人の方が来ても労働力が足りない、また、言葉をしゃべる方が足りない、海外の方を、今、観光産業で雇用するのは大変難しい状況でありますし、それから白馬が観光で成り立っていく中で、実はきちんとデータをとったりとか、それから国にいろいろお願いをするとき、きちんデータを出しなさいと言うんですが、その仕組みづくりが大変難しかったりしております。
　その辺のことを県のほうにもいろいろお願いしたりしているんですが、なかなか、あまりにも白馬のペースが速いのか、今までやったことのないことをしているのかということもありますので、そういうことを含めてお願いしています。

【長野県知事　阿部守一】
　そうですね、これちょっと、私、HAKUBA VALLEYの今の状況をよくわかってないんで、ちょっと皆さんに教えてもらいたいんですけれども。先ほど申し上げたように、県は観光行政のかじを切っています。観光部だけの観光行政じゃなくて、いろいろな部局が観光にかかわって、そして地域振興局の大きなテーマも観光振興という形に位置づけて取組を始めています。それと同時に、県の観光部と、それから県の観光機構との関係性も今までとは変えていこうと。なるべく、観光機構が単なる県の下請じゃなくて、独自にいろいろな取組ができるようにしていこうということで考えていまして。
　それと同時に地域レベルの観光協会だったり、ＤＭＯができてきていますけれども、私は広域ＤＭＯの設置を推進していきたいと思っていますし、県もそういう方向でやっています。ぜひ、今、出ているような話は、私は白馬エリア、あるいはHAKUBA VALLEYのＤＭＯをつくってもらって、そこを、我々応援しますので、そこでいろいろなデータとかいろいろな規制改革であったり、提案・要望であったり、そうしたものをまとめてもらうといいのかなというふうに思っています。
　というのは、例えば県全体を見たときに白馬、あるいは白馬周辺の置かれている状況

と、例えば飯田周辺の、これから９年後にリニア新幹線の駅ができますよと、それに目がけて観光も取り組まなければというところというのはかなり状況が違っています。そのような中、県の少ない観光部の職員があっちの実状こっちの実状を全部踏まえてやるというのはかなり難しいと思っています。それよりも、我々も県としてやることはしっかりやるし、応援しますので、それぞれの地域課題にしっかり向き合える組織を、これ官民一体でつくってもらって、そこで、なかなか地域の意見というのはまとまりづらいところもあるのかもしれないですけれども、集約してもらって進んでいくということが、私はかなりこれからの観光政策においては重要じゃないかなというふうに思っています。

それと同時に、今の労働力の話は、これはしっかり県がやらなければいけないテーマだと思っています。これはＤＭＯとかに任せる話じゃなくて、働き手の問題は、今、全ての業種で人手が足りないという状況になっています。人手が足りない状況の中で、片方で日本人の人口はどんどん減っていきます。今の状況は、我々としては長野県全体の産業の発展にとって極めて由々しき状態だという認識は強く持っていますので、そういう意味で、人材の確保と人材の育成の部分については、外国人人材のあり方も含めて、今、全庁的に取り組んでいこうと。そして就業促進・働き方戦略会議というのを今度つくります。そこで分野ごと、観光は観光、あるいは地域ごと、この北アルプスエリアは北アルプスエリアごとに、さっき言ったように、これも課題がそれぞれで違うんでしっかり考える場をつくりますので、そこで北アルプス地域の就業の問題と、それから観光の問題については、別の切り口で考えていきます。それは局長のほうで今、準備していますので、何か一言。

【長野県北アルプス地域振興局長　中村正人】

地域振興局です。今の外国人の労働者の方や若者も含めて、人材育成とか、働くということに関してどういうふうにしていくかということ、今、県全体の会議と地域ごとの会議とつくろうじゃないかということで、県全体は動いているんですが、地域ごとの会議も、いろいろな観点で話し合いをしましょうということで、５月末か６月に入ってしまうと思いますが進めております。

【長野県知事　阿部守一】

特にこのエリアはおそらく観光人材の不足というのが、多分、最も重要なテーマになると思いますので、地域のメンバーはまだ人選中ですが、そこで検討をしっかりしてもらいたいと思っています。それから白馬高校については、明日行って生徒たちとも会っ

て話をしていきたいと思います。

ある意味、高校改革の先例を切った高校でありますし、全国募集をしているということであったり、地元の市町村の皆さんに応援してもらって経営できている高校でもありますので、県としても責任を持ってしっかりこれからも応援をして、いい学校に育つようにしていきたいというふうに思っています。

学びの県づくりということ、『学びと自治』という話を申し上げましたけれども、これから全県的に高校改革が大きなテーマになっておりますけれども、その中のモデルになり得るように、白馬高校を育てていきたいと思っていますので、ぜひまた地域の皆さんには、学生の就職の支援も含めてご協力いただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございます。それでは、もうひと方、どなたかおられましたら。

【参加者】

こんにちは。一つ質問というか、お願いなんですけど、その前に今のプレゼンテーションを聞いて、一つだけちょっとアイデアが浮かんだんでいいですか。知事が花を胸に、生花を差して挨拶に回ると言ったんですけど、ぜひそれを白馬のエディブルフラワーとつなげて、これ食べられるんですよとかと挨拶のときに、こうやってむしゃむしゃ食べちゃうっていう、そうやってやると、大変、出会ったときに印象が深まるんじゃないかな、失礼しました。

一つお願いなんですけど、白馬はやっぱり山で売っている場所なんで、夏の、やっぱり中心はどうしても山に頼らざるを得ない部分ってあると思うんです。

そこで信州登山案内人という県の制度があるんですけれども、６年前、平成24年から始まっているんですが。なかなか、その試験の合格率というのが去年は50%を切っているんですけれども、もちろん、そのガイドになるためのその資格の取り方はすごく難しいんじゃないかっていうことなんです。

当然、命にかかわるような大事なところは押さえておかなきゃいけないんですけれども、北アルプスという地区を選んだときに10問質問があって、その中で７つ正解しないと北アルプスとしてのガイドに登録できないんですよ。その信州登山案内人がないと白馬の山岳ガイドの組合にも入れない。今、ガイドも高齢化しています。若い人は少ない。

若くて体力があって山の経験がある人も、その資格がないと山岳ガイドに登録できな

いんですよ。試験の問題が、北アルプス地区とかですと、本当にそれを知っていてどれだけ意味があるんですかという、引っかけとは言わなくても、そういうような問題があって、それで私の友人とか知人も何人も落ちている人がいるんですよ。山の経験は十分にある若手のバリバリの人が。ですから、もっと何かチャレンジ制度みたいな、研修で資格を取れるようにするとか、そういったようなシステムを少し考えないとガイドが増えていかないというか、やっぱり若い人、やる気のある人にしっかりやってもらうというのが大事だと思います。

それとあと、これから外国人の登山者も、穂高とかも当然、増えていますし、白馬にも自由に入ってきていますけれども。英語のできるガイドも非常に少ない。長野で英語でガイドする人は基本的に信州登山案内人を持っていないと、どれだけ英語ができてもできない。ですから、その資格が結構障害になっていて、今後、もっと夏、外国の人を取り込もうとするときに少し障壁になっているという話があります。

ですから、そのガイドのあり方もというか資格の取り方ももう少しこう考えていく必要があるんじゃないかなということです。以上です。

【長野県知事　阿部守一】

ありがとうございます。ちょっと、私、申しわけない、どんな問題が出ているのかわかってないんで、今のお話は持ち帰ってしっかり考えます。

さっきちょっとＤＭＯの話もしましたけれども、やっぱり観光って、私、すごく複合的な視点が必要だと思っていまして。実は登山案内人の制度も制度だけあればいいというものではないと私は思っています。登山案内人の制度をつくって、ではその例えば登山案内人の人たちが案内することによって、どれだけお越しいただいている人たちの満足度が高まるんだかとか、安全性が高まるかということも、しっかり考えなければいけないですし、それと同時にその登山案内人の資格を取れば、あるいは一定程度収入が確保できるような道があるというようなこととか、セットで考えなければいけないと思っています。

セットで考えるときに、私はやっぱり地域ＤＭＯというのはすごく重要だと思っていまして、例えばここに行くんだったら案内人を必ずつけてくださいねみたいな、これ規制と誘導といろいろなやり方があると思いますけれども、そういうものをやっぱり市町村あるいは県とも一緒になってＤＭＯが発想して行動してもらうということが、多分、非常に重要になってきていると思っていますので。ぜひ今の登山案内人の話は質問が変だったらちょっと直させますし、全体のパッケージでどうあるべきかというのは、もう

一回しっかり考えたいというふうに思います。

それから、ちょっとさっきの和田さんの話で、ちょっと対応させていただいてない話をちょっとお話しすると、二次交通の問題で、実はこれ観光に限らず、長野県における重要な問題が地域の交通だと思っています。生活環境を守るための交通の話と、それから観光振興を図るための交通の話と、大きく交通の問題も視点は二通りあるというふうに思っていますけれども、今、長野県として、そのバス事業者であったりタクシー事業者の皆さんといろいろ話をして、少しいろいろなチャレンジをもうちょっとできないかということを進めようとしています。

例えば貨客混載みたいな、長野県、中山間地が多いんで、どうしても人だけ乗っけてとか、物だけ乗っけてだと非常に効率が悪いんで、貨客混載の仕組みをつくったり、あるいは、これ諏訪地域のタクシー事業者にお願いして、タクシー定期、そういう取組とかも始めていこうと思っています。どうしてもこの交通の分野は、国の規制がいっぱいかかっています。許認可官庁が国で、都道府県・市町村は、その許認可の観点ではほとんど関われないという実態があるんで、これ、ちょっと隔靴掻痒（かっかそうよう）の感が正直言ってありますけれども、少しずつ事業者の皆さんも非常に問題意識を、今、持っていらっしゃいますので、県も一緒になって考えていきたいと思っています。

ぜひ、これはスキー場初め、観光の皆さんとも一緒になって、この二次交通のあり方というのはしっかり考えていきたいというふうに思いますので、またちょっと具体的なご提案等いただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【進行役：柴田謙二さん】

ありがとうございました。ほかにどなたか。

ないようでしたらこれで終りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、限られた時間でしたが、ディスカッションは終わりにして、これでマイクをお返ししたいと思います。

【北アルプス地域振興局企画振興課長　柳沢　剛】

ありがとうございました。今、お話もありましたけれども、限られた時間でございましたので、ご発言いただけなかった方もいらっしゃると思います。封筒の中にアンケートが入っておりますのでご記入をいただいて、入り口のアンケート回収ボックスのほうにお入れいただきますようにお願いいたします。

それでは、最後に知事のほうから、まとめということでコメントをお願いしたいと思

います。

６　知事総括コメント

【長野県知事　阿部守一】

　では、ちょっとお礼とまとめをさせていただきたいと思います。まず柴田さんにはコーディネート役をやっていただきまして、大変ありがとうございました。お疲れさまでした。ちょっと短時間なんで、十分、話が深まりにくくて申しわけございませんでしたけれども、ありがとうございました。

　また和田さん、ケビンさん、中村さんにも、それぞれのお取組、発表をいただくと同時に、私どもにいろいろなご示唆をいただきまして大変ありがとうございます。

　ぜひ皆さんには、繰り返しますけれども、『学びと自治』ということだけ今日はしっかり頭に刻んでいただければ大変ありがたいなと思っています。観光と『学びと自治』というのは、ちょっと聞くと、あんまり関係ない感じはしますけれども、私は『学びと自治』と観光とすごく密接に関係しているというふうに思っています。

　例えば海外からお客さんを呼ぼうとしたときに、さっきもお話が出ていましたけれども、ベトナム人の人は何を期待しているのかとか、あるいはアメリカの人は長野県、あるいは白馬へ来たときに、どんな楽しみ方をしているのかと、それも学ばなければ、我々わからないです。我々が自分勝手にこんなことをしたら喜ぶんじゃないかなんていうことを考えても、絶対それはニーズに合致しないと思いますので、そういうことを考えれば、やっぱり世界の状況、動向を把握しながら、そして特に白馬の場合、私は競争相手は国内じゃないと思っていますから、国内じゃなくて世界のリゾートが一体何を考えているのかということを、我々県もしっかり把握していかなければいけないですけれども、ぜひ皆さんと一緒にそういうことを学びながら戦略を立てていくということが必要だというふうに思っています。

　そういう意味で、長野県、戦略本部をつくって部局横断で取り組み始めました。まだまだ緒についたばかりでありますけれども、地域においてもぜひ横につながっていただいて、いろいろな業種の人たちが、全部、観光に関係しているはずですから、この観光のあり方について、この地域をどうするんだと、HAKUBA VALLEY、どうするんだということを、ぜひまず皆さんの中でしっかり考えて方向付けをしていただきたいと思います。もちろん我々県もしっかり関わって議論し、方向付けをしたものについてはしっかり応援をさせていただきたいというふうに思っています。

　インバウンドについては、今、どんどん増えている状況ですので、先ほどおっしゃっ

ていただいたように、その課題はどう解決するかということはしっかり考えなければいけないというふうに思いますし、日本人のお客さんは、人口減少下で今、放っておけば減っていくということが避けられない状況の中で、やっぱり２回、３回、来てもらえる魅力ある地域をどうつくるかということが大変重要だと私は思っています。そういう意味で、この観光という狭い観点だけではなくて、『観光地域づくり』という観点で県としては政策を進めていきますので、どうか皆様方にも引き続きご協力をいただきますようお願いを申し上げます。

今日はお休みの時間に大勢の皆様方にお集まりいただきましたこと、重ねて感謝を申し上げるとともに、ぜひ一緒になってしあわせ信州、確かな暮らしの実現に向けてご協力、お取組いただきますことを心からお願いをして、私からのお礼の挨拶といたしたいと思います。ありがとうございました。

【北アルプス地域振興局企画振興課長　柳沢　剛】

それでは、ご参加の皆様、長時間にわたりありがとうございました。また、パネラーの皆様も本当にありがとうございました。

これをもちまして、県政タウンミーティングを終了いたします。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

（以上）